株式市場新聞
THE KABUSHIKI SHIJO SHINBUN
2020
10/26
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒530-0005
大阪市北区中之島４－２－２８甲南アセット中之島ビル
TEL 06-6105-1904
marketpress.jp

日経平均株価
２万３５１６円５９銭
▲４２円３２銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１６２５．３２
▲５．５３（前日比）

３月期２Ｑ発表始まる

安川電決算で過度な不安後退

カプコン上ブレあるか？

３月期企業の第２四半期累計（４～９月）決算発表が２６日の**日本電産**（６５９４）を皮切りに本格化する。春先は新型コロナウイルスの感染拡大を受けた自粛の動きを受けて小売りや製造業を筆頭に大幅な減収減益を余儀なくされる企業が多いが、これは織り込み済み。国内では経済活動が正常化へ向かうなかで、第３四半期以降の回復度合いを探ることになり、巣篭り需要で恩恵を受けている企業は更なる上振れが確認できるかが、注目される。

第３四半期以降の回復度合いを探る

決算発表シーズンでは、先行指標的存在である**安川電機**（６５０６）が９日に発表され、営業利益では１３２億９４００万円（前年同期比８・３％減）と従来計画の１０７億円を上振れた。株価は発表後に利益確定売りに押されたが、アナリストサイドでは下期保守的との指摘が多く、今後発表される同様の業種でも過度な業績不安は後退している。

２６日は**日本電産**（６５９４）、**東京エレクトロンデバイス**（２７６０）、２７日は**信越化学工業**（４０６３）、**富士通**（６７０２）が控える。日本電産は４月から永守会長と関社長の２トップ体制となり、意思決定が迅速化、ＥＶトラクションモーターの拡販を進めており、この状況が永守会長から示されるかが注目される。

巣篭り需要を満喫しているのがゲームセクターだが、２６日に**コーエーテクモホールディングス**（３６３５）、２９日に**カプコン**（９６９７）、１１月１５日に**任天堂**（７９７４）、６日に**スクウェア・エニックス・ホールディングス**（９６８４）が予定されている。カプコンは第１四半期で３９・１％の大幅営業増益となり、各項目で過去最高を記録した。ダウンロード（ＤＬ）によるリピート販売だけで前年同期比１・６倍を記録しているだけに、これに新作が加われば通期上ブレの可能性もある。

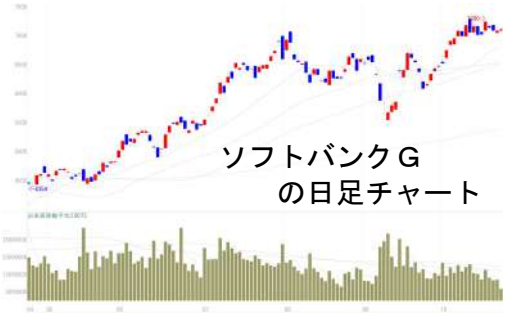
日経平均日足チャート

今週の動意銘柄

ソフトバンクG最高値

アント香港上場承認を材料視

連休明け19日、**ソフトバンクグループ**（9984）が続伸、最高値を更新した。中国証券監督管理委員会が、アリババ・グループ傘下の金融会社アント・グループの香港上場計画を承認したことを材料視。アリババ・グループの資産価値が上がればアリババ株を保有している同社も恩恵を享受するとの期待が膨らんだ。



SKジャパン「鬼滅の刃」

エスケイジャパン（7608）がストップ高。先頃公開された『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』が空前の好スタートを切ったことからキャラクター・ファンシー事業で「鬼滅の刃」商品を手掛ける同社が関連銘柄として人気を集めた。

公開価格の5・3倍

アースインフィの初値

16日にジャスダック市場に新規上場した**アースインフィニティ**（7692）は公開価格1970円の5・3倍となる1万4110円で初値が生まれた。小売電気事業、ガス小売事業、電子機器の製造・販売・卸業を行う。

GNI臨床試験後ずれ

ジーエヌアイグループ（2160）がストップ安。「F351」の第2相臨床試験の完了を踏まえ、第3相臨床試験に進むのは概ね21年12月期第2四半期ごろになるとの見通しを示したことが嫌気された。20年8月18日の決算説明会では向こう6カ月としてたため、臨床試験の開始時期が後ずれする。

リバーエレ生産増強

20日、**リバーエレテック**（6666）が大幅高で年初来高値更新。製造子会社の青森リバーテクノの水晶振動子製造ライン増設を発表した。次世代通信規格5G進展に伴い、音叉型水晶振動子の需要増に対応するため、5月から生産を強化してきたが、中長期的視点に立ちさらに生産能力を増強する。設備投資額は6億3000万円で、21年6月稼働を目指す。

再生エネ高く東電安い

レノバ（9519）、**ウエストホールディングス**（1407）、など再生エネルギー関連が高い。河野太郎規制改革相が「再生可能エネルギーの活用促進に向けて既存の制度を総点検する」と表明したと報じた。一方で競争月下懸念から**東京電力ホールディングス**（9501）は大幅安に売られた。

ラクス急伸し最高値

ラクス（3923）が急伸し実質最高値更新。TVニュース番組で次のデジタル化は「脱・領収書」として同社が取り上げられ、清算アプリがテレワークの普及により急速に伸びていることが報じられた。

島忠はニトリ買収検討

21日、**島忠**（8184）が大幅高。**ニトリホールディングス**（9843）が同社の買収を検討していると伝わった。現在、**DCMホールディングス**（3050）が完全子会社化を目指して4200円でTOBを実施しており、TOB価格引き上げの思惑などから買いが向かった。

正直じいさんの株で大判小判

切り返す好業績株を狙う

22日の東京市場は小動きに推移しました。追加経済対策成立への期待から前日の米株市場で主要指数が上昇したことを受け、買い先行で始まりました。朝方に一時下げに転じましたが、米大統領選テレビ討論会が無難なく通過すると後場寄り上げ幅は三桁にまで広げましたが、その後は再び上値が重くなり方向感なく小動きで推移しています。

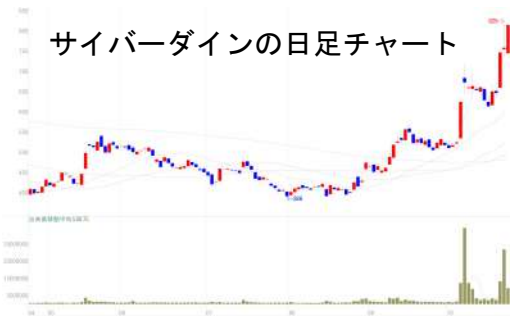
一方、マザーズ指数は大幅に続落しており、グロース系の中小型株に利益確定売りがかさみました。渋りましたが、今少し後場からは下げ必要があるでしょう。様子を見極める短期的な需給調整にとどまるようなら、決算発表を前にした拾い場になると考えており、切り返してくる好業績銘柄を狙っていきたいと思います。今週は27日の**カラダノート**（4014）含めて4社のIPOも控え、これらのセカンダリーにも注目です。

花咲 翁

サイバダインS高新値

HAL台湾で医療機器承認

２１日、CYBERDYNE（７７７９）がストップ高で年初来高値更。HAL医療用下肢タイプが台湾衛生福利部食品薬物管理署から医療機器の承認を取得したと発表した。承認を受け、台湾大手医療機器専門商社のCHCヘルスケアグループと提携、病院で医療用HALによるサイバニクス治療の運用を開始するとともに、HALの営業活動を行うとしており、海外事業の拡大と収益貢献が期待された。



ソフトクリ上振れ増配

ソフトクリエイトホールディングス（３３７１）が急伸し上場来高値更新。２１年３月期の連結業績予想を上方修正した。通期について営業利益を２２億７０００万円から２７億７２００万円（前期比１６・５％増）へ。ECやデジタルマーケへの投資需要が収益を押し上げ、年間配当金を２０円から３０円に（前期２０円）に引き上げた。

MDV利益確定売り

２２日、**メディカル・データ・ビジョン**（３９０２）が急落。グロース系中小型株に利益確定売り圧力が強まるなか、高値警戒感と高水準の信用買い残が重荷になった。オンライン診療拡大期待を手掛かりに実質最高値３５２５円まで１カ月で上昇率は８割を超えていた。

NOK大幅赤字縮小

NOK（７２４０）が続騰。２１年３月期の連結業績予想を上方修正、大幅な赤字縮小を見込んだ。通期について、営業損益を２２８億円の赤字から１０８億円の赤字（前期は１２０億２８００万円の黒字）へ。中国を中心に自動車生産が復調、シール売上が回復傾向にあり、電子部品もスマホ向けが予想を上回って推移。経費や投資の抑制効果も表面化する。併せて連結子会社の日本メクトロンが希望退職者募集を発表。

企業レター

より優れた機能を追及

ハリマ化成グループ

製品紹介に「紙製梱包資材」掲載

ハリマ化成グループ（４４１０）はホームページの主な製品紹介に「紙製梱包資材」を掲載した。

紙製梱包資材はコロナ禍で通信販売の利用頻度が高まり、これまで以上にクオリティーが求められる一方、海洋プラスチックゴミによる汚染が問題視され、ＳＤＧｓの一つとして脱プラスチックが世界的流れとなるなか、代替梱包資材としてニーズは高まる方向にある。こうした現状をとらえ、紙製梱包資材の強度や耐水性といった機能を付与する製紙用薬品を供給する同社の事業への取り組み姿勢を表明した。

紙力増強剤「ハーマイドシリーズ」、「ハリコートシリーズ」やサイズ剤「ハーサイズシリーズ」を販売、この分野にで長年にわたり大きな役割を担ってきた。ただ、再生可能資源として古紙の再利用が繰り返されることで原料の品質は低下していくため、製紙用薬品による機能付与がさらに重要になっていく。同社は蓄積した技術を活かしてより優れた機能の製紙用薬品を追及、安心できる梱包資材を提供する構えで、「くらしの安心と充実を支えることがハリマのものづくりの原動力」としている。

転ばぬ先のテクニカル

景気敏感株へバトンタッチか

先週の東京株式市場は反発しましたが、日経平均もＴＯＰＩＸも週足は陰線形成です。相変わらず狭い範囲でのもみ合いになっており、米大統領選挙が終わるまでは膠着なのかもしれません。大きく動いたのはマザーズ市場です。先々週から下落基調となっていましたが、２２日、２３日に投げ売りが殺到。一時１２００ポイント割れまであり、今月１４日の高値から１２％超の下落となりました。５週線を割り込んできており、一旦ピークアウトしたようです。

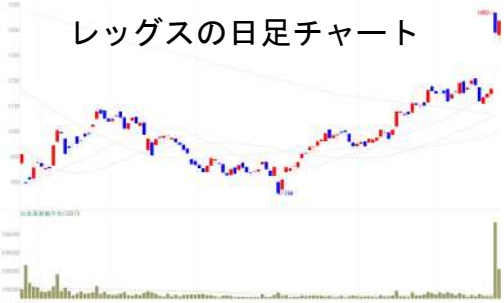
コロナ禍の相場を牽引してきたネットビジネス関連企業の株価が利益成長をほぼ織り込んでしまい、逆に逆風下でこの数週間、数十年ぶりの安値に叩き売られてきた大企業景気敏感株には大きな出来高を伴う続落も売り一巡感が出てきました。高配当銘柄も多く、ここで物色対象が変化するのかどうかを探る局面です。　**日々勇太朗**

今週の動意銘柄

レッグス値上りトップ

今期上方修正で配当引上げ

22日、**レッグス**（4286）が4連騰、一時ストップ高まで買われ、東証1部値上がり率トップに立った。20年12月期の業績予想について、通期連結売上高で150億円から155億円（前期比6・2％減）へ、営業利益で5億円から7億円（同38・2％減）へ上方修正。収益上振れに伴い、期末一括配当を18円から23円（前期34円）へ引き上げた。流通顧客向け物販と流通顧客向けプレミアムが好調に推移している。



ネクソン225新規採用

週末23日、**ネクソン**（3659）が急伸、一時ストップ高まで買われ最高値を更新した。日本経済新聞社は日経平均株価の構成銘柄について29日算出から**ファミリーマート**（8028）を除外し、同社を採用すると発表した。ファミリーマート上場廃止に伴う措置。

日立建保有株売却報道

日立建機（6305）が急落。日本経済新聞で「日立製作所が上場子会社である日立建機の株式の一部を売却する検討に入った」と報じたことが嫌気された。日立は**日立金属**（6486）についても売却の検討を進めているとし、日立金属も値を崩している。

高度紙は大幅上方修正

ニッポン高度紙工業（3891）がストップ高。21年3月期業績予想について、通期連結売上高で125億円から138億円（前期比5・4％増）へ、営業利益で9億円から19億円（同91・0％増）へ上方修正した。コンデンサ用セパレータ、データセンターや5G関連向けが堅調で、海外向け電気二重層キャパシタ用が好調に推移した。

株式会社 大森屋

2020年 秋・冬 新商品

大森屋 OHMORIYA

大阪王将餃子ふりかけ

みんなの大好きな餃子が、ついに「ふりかけ」になった！

大森屋 OHMORIYA × 大阪王将 OSAKA OUSHO

あの看板商品の味を再現！

おすすめポイント
1「大阪王将」監修のもと、本格的な餃子の味を再現。
2 大阪王将ならではの「鉄ラー油」風味の具材や餃子の焼き目をイメージしたパリパリ食感のフレークを配合。
3 にんにくやしょうがでパンチを効かせたご飯が進む味！

誘惑のふりかけチキたま

ガツガツとごはんが進む「誘惑のふりかけ」に

第3弾登場！

旨辛好きをターゲットに「チキたま」が食欲をそそる！

おすすめポイント
1 コクのある濃厚な味わいで、ガツガツとごはんが進む！
2 旨辛いチキンの風味とサクサク食感の旨辛天かすの競演。
3 ごはんに合う具材をミックスした食べ応えのあるふりかけ。
旨辛天かす　ゴマ　かつお節　卵そぼろ　ノリ

株式会社 大森屋　http://www.ohmoriya.com/

英和（9857）

成長分野へ攻めの経営

デジタル技術で効率化提案

新たなBモデル確立へ

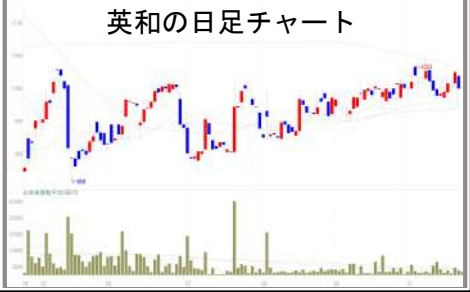
英和（９８５７）は計測・制御機器に強みを持つ技術専門商社で組立・製造子会社を擁し、高い技術力が評価され、大手企業を中心に数多くの固定顧客を有している。独立系であることからあらゆる製品を提案することが可能で、さまざまな分野で同社のビジネスチャンスが拡大している。

２１年３月期は新型コロナウイルス感染拡大による経済活動停滞の影響を受け通期連結売上高で３５０億円（前期比７．１％減）、営業利益で８億１０００万円（同５２．６％減）を見込むが、官公庁向けの産業車両や各種機器など、社会インフラ投資に関する受注は堅調に推移しており、感染終息後は、防災・減災対策、高機能材や新エネルギーの普及に向けた研究開発投資、生産性向上や環境・安心・安全・品質に関連する設備投資については徐々に回復すると想定している。

そのような中で同社では空洞化しない業界への販売拡大はもとより、デジタル技術（ＩｏＴやＡＩなど）を活用した生産性向上や効率化につながるソリューション提案などを含めて成長分野に向け攻めの経営を推進する。創業以来の「ピンチをチャンスに」という不屈の精神で、新たなビジネスモデルの確立に取り組む方針で、商材の拡充と国内販売体制の強化を目的とした企業買収、戦略的提携なども視野に入れ、成熟市場の中でも、業績の向上と業容の拡大を図っていく。

特選銘柄

英和の日足チャート



11月21日（土）第5回 株式セミナー in大阪

～アメリカの大統領選後に新たな波動が生まれる～

年末から来年に最も上昇する銘柄の選び方とテクニック

主催：株式市場新聞　申込はTEL06-6105-1904またはinfo@marketpress.jp まで

時間：１４時～１６時　参加料：無料　先着２０名　マスク着用必須！

誰でもチャートを見れば簡単に銘柄を探せるワザ

これから上昇する特選銘柄5銘柄を教えます!!

数々の株式コンテストで優勝した岡山憲史さんが登壇

岡山憲史氏（株式会社マーケットバンク代表）１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」約１万人の参加者の中から優勝のほか、多くのコンテストで優勝。１カ月間の３銘柄合計パフォーマンス１５５％と断トツ。週刊現代や週刊ポスト、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行い、個人投資家に投資情報サービスを提供。

御堂筋線本町駅　12番出口　徒歩５分

会場：Ｄ－ＳＰＯＴ－ＣＯＭ本町１Ｆセミナールーム

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7　第一住建　南久宝寺町ビル　【TEL】06-6252-8811

＊セミナー参加者に大変便利なポケットサイズの2020年版最新カレント経済ノート「主要経済指標」定価1,000円を参加者全員に差し上げます。

高野恭壽の株式情報 これでどゃ!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活！

テーマはEVと水素時代

岩谷産業を狙う

先週は22日に日経平均が久々に大きく下落しました。これまで下落傾向を続けていた銘柄が決算発表時期の接近に伴い再び下落する動きが強まりました。ハイテク系も利益確定の動きが強まっています。日経平均の下落に拍車をかけたのはJR系、医薬品系でした。日経平均の採用銘柄ではありませんが、ニトリが島忠の買収を検討中との報道で大きく下げたことも好決算銘柄に冷や水をかけたようです。こうした国内の要因に加えて米国で議会で協議している追加経済対策がもたついていることも嫌気されました。

下落傾向を強めていた医薬品ですが、エーザイ、塩野義、中外薬が軒並み大幅な下落になりました。塩野義、中外薬は高値から30％を超える下落になり、10月初めまで値を保っていたエーザイもこの3週間で15％も下落しています。それを考えると目先、ほぼ売り切ったと思われます。中外薬は中間決算で30％増益と報じられたことで反発のきっかけをつかむとみられます。それが刺激となって下落を続けていたこれらの銘柄も反発する可能性が大きいとみられます。米国でギリアド社のレムデシベルが新型肺炎治療薬として承認されました。それも刺激になりそうです。

今回の狙いは**日産自動車**（7201）、**GSユアサ**（6674）、**パナソニック**（6752）です。また、**岩谷産業**（8088）の反落場面も注目です。電気自動車と水素時代がテーマです。一貫推奨している**アイフル**（8515）は全体の動きをしり目に堅調に推移していました。300円前後の売り物をこなしてさらに、上値を追う可能性もあります。

高野恭壽（たかのやすひさ）**氏**　株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめＴＶ、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。
公式ホームページ
https://marketpress.jp/kabu-takano/

国策に売なし・不景気の株高・日経平均24000円目標大予言接近次は28000円目標押目買

◎自信の的中率・最近の底値買指示銘柄例（よくお調べください）（10月19日）

（９４３４）ソフトバンク　断固買

◎御存知の如く１５５４円の高値より１年暴落中絶好の買場到来中

トヨタ→5800～6000円買→7300円に上昇す
ＡＮＡ→2200円買前後買→2900円に上昇中
アルプス→900円買前後買→1770円に上昇中
コマツ→1600～1700円買→2430円に上昇中
三井金属→1800円買→2792円に上昇中
東急不動→400円前後買→490円に上昇中
ツムラ→2400～2500円買→3350円に上昇中
日本郵船→1200円前後買→1970円に上昇中

◎株は論より証拠・上記の如く大幅高予想銘柄ズバリお知らせします（1回無料）（成果確認）

インターネットでの資料請求はここをクリック！

大伸経済研究社
電話058-243-5690（午前8:30～11:00）
〒501-3144 岐阜市芥見大般若2-25-2

金融商品取引業者 登録番号 東海財務局長(金商)第45号(一般社団法人)日本投資顧問業協会会員

潮流

バリュー株に投資妙味!!

買われ過ぎた銘柄の下げ速い

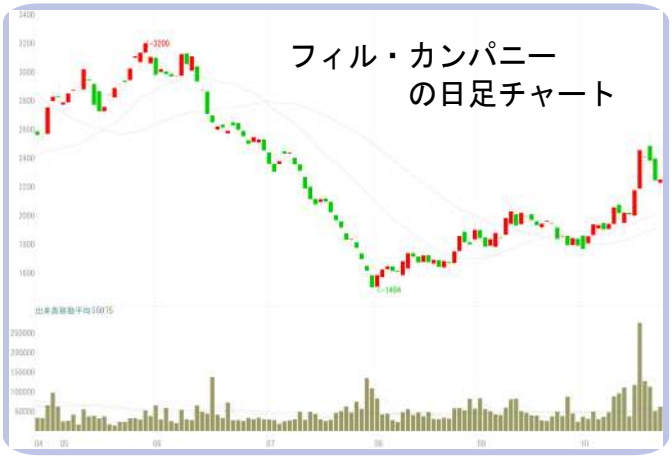
岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

今後は選別が色強まる

米ダウ平均は調整色が強まっている。ただ、鉄道や空運など２０銘柄で構成されるダウ輸送株平均はすでに新型コロナ感染拡大前の水準を上回っている。１０月１９日の取引時間中には初めて節目の１万２０００ドルを上回る場面もあった。ダウ輸送株平均は構成銘柄の性格上、ダウ平均に２カ月程度の先行性がある。将来的にダウ平均も過去最高値を上回ってくる可能性が高いことになる。

一方、ダウ平均はチャート上では、相場の高値圏で現れると売りの転換サインとされる「ダブルトップ」気味の動きとなりつつある。ダウ平均とダウ輸送株平均がそれほど時間をあけずに高値を更新すれば、株高トレンドがはっきりする。しかし、今回のように両指数のズレが強まってくると、ダウ輸送株平均の動きが否定され、株式市場は強気になり切れずに下落トレンドに変わることもある。

日本の株式市場も売り圧力が強まっている。２２日にはほぼ２５日移動平均に到達した。日経平均の２５日騰落レシオは２１日時点で７１％まで下がり、既に売られ過ぎの水準に来ている。日経平均が上昇基調を強めるのは米大統領選の結果が判明した後になるだろう。１０月第２週（１２日～１６日）の先物の投資部門別株式売買動向（日経平均先物、ＴＯＰＩＸ先物、ミニ日経平均先物、ミニＴＯＰＩＸ先物の合計）によると、外国人投資家は３６１４億円売り越した。今後の日経平均の動きを予想するには外国人投資家が２２５先物を買いに転じるか、売りが拡大するかが重要なポイントだ。



２２日はマザーズ指数が一時、５％急落し、２５日移動平均に到達した。今後は反発する銘柄も出て来るだろう。１０月に新規上場した**アクシス**（４０１２）と**アースインフィニティ**（７６９２）は公募価格の５倍以上で初値が付いたが、今の株価は高値から半値となり、上場来安値だ。１０月１４日に東証マザーズ指数は２００６年８月２４日以来、約１４年２カ月ぶりの高値をつけた。個人投資家やディーラーがこぞってデジタル関連株中心のコロナ禍勝ち組銘柄を買ってきた。しかし、買われ過ぎた銘柄の下げは速い。今後は選別色が強まるだろう。売られ過ぎたバリュー株に投資妙味が出てきそうだ。

潮流銘柄は**フィル・カンパニー**（３２６７）、**ＡＩ　ＣＲＯＳＳ**（４４７６）、**イントラスト**（７１９１）。

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

吹き値売りの突っ込み買い

大統領選ゴタゴタ続けば悪影響

先週の日経平均は前週末比約▼１０５円と小幅な動きとなった。２万３７００円台の高値に近付くと売られ、２５日移動平均線に近付くと買われる展開で、週間上下幅も約２８０円と方向感の無い展開であった。１１月３日の米大統領選まではこのように動きずらい相場展開となろう。

では、大統領選後はどうなるであろうか。イベント通過で上昇するという見方もできるが、バイデン氏が勝利した場合はすんなりいきそうに無い。恐らくトランプ氏は投票の無効を訴える可能性が高く、政治のゴタゴタが続けば相場には悪影響である。更に、トランプ氏の任期は来年１月２０日まであり、それまでの間何か想定外のことを起こす可能性もある。

相場は「バイデン氏有利」で堅調に動いているが、実際に決まればその後の反応は違ってくるのかもしれない。過去１０回の米大統領選で選挙後１０日間のＮＹダウは平均して０・８％の下落となっている。イベント通過で一旦は上昇するかもしれないが、その後は冷静な判断が必要である。

今週も２５日移動平均線（２万３４３１円処）を下値抵抗ラインとして意識された相場展開となろう。為替が円高傾向にあり、これに合わせて先物に売りが出てくるが、２５日移動平均線を割り込むと買いが入り、売りを吸収している感じがする。２５日移動平均線を明確に下回ってくると相場の雰囲気は変わってくるが、米大統領選前に仕掛ける外資はいなさそうである。反対に大統領選前にポジションを軽くしておきたいヘッジファンドから買戻しが入る可能性もあり、堅調な動きとなろう。

今週は収斂するボリンジャーバンドの△２σの２万３８００円から▼１σの２万３３００円のレンジを想定する。スタンスは「噴き値売りの突っ込み買い」である。

（ハチロク）

大統領選後はどうなる？（ホワイトハウス）

NYダウの日足チャート

日経225先物の日足チャート

星野三太郎の株街往来

～未だに普及しない５Ｇ～

Ａｐｐｌｅの新製品発表会が１０月１４日に行われ、ｉＰｈｏｎｅ１２が発表された。筆者の場合は安くても通話機能と乗換案内など最低限のアプリが使えたら不満はないので、５０００円程度で購入したアウトレットのａｎｄｒｏｉｄ端末を使用しているが、今回発表されたＰｒｏ Ｍａｘモデルの最上位モデルでは１５万円を超える価格なので、その値段なら高性能なノートパソコンが買えてしまう。

ｉＰｈｏｎｅに搭載される機能が今後のスマホのスタンダードになるという印象があるなか、今回の端末は５Ｇ対応となった。５Ｇについてはサービス開始前から様々な記事を書いてきたが、残念ながら日本では普及していない。９月には楽天が５Ｇで２９８０円のプランを打ち出しており、頑張っている印象を受けたがサービスエリアでは課題があることから、楽天以外の大手キャリアを含めて、相当頑張らないと他の先進国から取り残される不安は拭えない。ただ、筆者の親を含めて未だに３Ｇ端末使用しており、それで不満を持っていない。不必要な機能なら機種交換意欲はわかないのも現実だ。

企業レター

ウッドデザイン賞受賞

積水ハウス

日本初SGEC/PEFC全体認証住宅

森林認証のもり まさこの家

積水ハウス（１９２８）は合同会社森林認証のもりと共同プロジェクトとして建築した個人住宅において、ウッドデザイン賞運営事務局主催の「ウッドデザイン賞２０２０」（林野庁補助事業）を共同で受賞した（ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野）。

積水ハウスは持続可能な木材利用に取り組んでおり、同賞の受賞は２０１５年のウッドデザイン賞制度創設以降、５度目の受賞。今回受賞した物件は戸建住宅として日本初の認証取得で、国産材を中心とするＳＧＥＣ／ＰＥＦＣ森林認証材を７０％以上使用し、その他非認証材においても、すべてのトレーサビリティが確保された合法かつ環境に優しい木材を利用している。

今後、木造住宅シャーウッドの国産木材利用をさらに推進するため、同モデルの標準化を目指す。

CAPCOM STORE OSAKA_店舗イメージ

カプコン

11月20日オープン

CAPCOM STORE OSAKA

カプコン（９６９７）が、心斎橋ＰＡＲＣＯ内に出店する「ＣＡＰＣＯＭ ＳＴＯＲＥ ＯＳＡＫＡ」のグランドオープン日が１１月２０日に決定した。

「ＣＡＰＣＯＭ ＳＴＯＲＥ ＯＳＡＫＡ」は、２０１９年に渋谷ＰＡＲＣＯにオープンした「ＣＡＰＣＯＭ ＳＴＯＲＥ ＴＯＫＹＯ」に続く、関西初出店のアンテナショップ。「バイオハザード」や「モンスターハンター」など同社の人気シリーズやキャラクターのグッズを取り揃えるほか、店舗限定のグッズも取り扱う予定。

国内２店舗目として関西でもアンテナショップを展開することで、さらに幅広い層にコンテンツの魅力をアピールする。

記者の視点

相場見通し

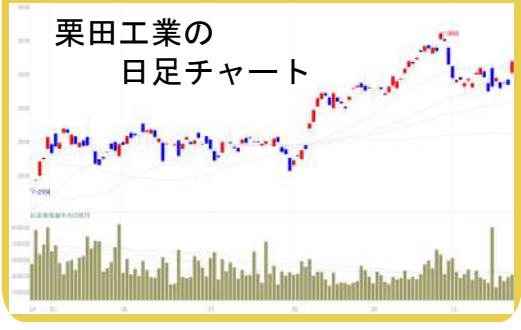
大統領選通過待ち

警戒感強い動きつづく

先週の東京市場は引き続き膠着感の強い動きとなった。22日の時点では米国で追加経済対策の与野党協議が近くまとまるとの期待が高まっていたが、下院民主党の一部議員が選挙前の採決に反対を表明していることから、大統領選前の追加経済対策発動に懐疑的な見方が多い。大統領選についてもバイデン氏のリードは変わらないが、トランプ大統領の追い上げを指摘する向きも多く、大統領選が通過するまでは、警戒感が強い動きが続こう。

一方、国内ではマザーズ指数が10月14日に1368・19ポイントの高値を付けた後に週末には1200台割れの攻防になるまで急落した。グロース系銘柄を選好している個人投資家の追証発生も懸念されているだけに、マザーズ指数の落ち着きも待たれる。当面は需給動向を含めて国内外の動きを見極めたい。

今週は米国では26日にアルファベット、27日にキャタピラー、3M、メルクなど主要企業の決算が予定され、国内でも26日に日本電産、キヤノン、日東電工、27日に信越化学、富士通など3月期企業の第2四半期決算発表がスタートする。新型コロナ感染に絡む自粛の影響で第1四半期は多くの企業で大幅な減益を余儀なくされたが、先週の時点では**横河ブリッジホールディングス**（5911）や**栗田工業**（6370）など上方修正を発表した企業も散見された。上方修正発表後に材料出尽くしから下落する銘柄も少なくないが、好決算を発表後に株価が落ち着いた場面は買い場提供になるかも知れない。



今週のスケジュール

- 26日　中国共産党第19回中央委員会第5回全体会議(5中全会)開催(～29日)
  独10月Ifo景況感指数(18:00)
  米9月新築住宅販売件数(23:00)
- 27日　米9月耐久財受注(21:30)
- 28日　日銀金融政策決定会合(～29日)
- 29日　黒田日銀総裁経験/日銀「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)
  9月商業動態統計(8:50)
  10月消費動向調査(14:00)
  ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)
  米7-9月期GDP(21:30)
- 30日　9月失業率・有効求人倍率(8:30)
  9月鉱工業生産(8:50)
- 31日　中国10月製造業PMI、非製造業PMI(10:00)

編集後記

M&Aによる中小零細企業の事業承継の動きが加速している。後継者不足に悩んでいたところへのコロナ禍で事業存続を断念した経営者と多角化で生き残るため新たなビジネスを求める買い手とのマッチングが進み始めたためで、経営学修士を取得する若者を経営者として仲介、買収資金を提供する取組みも進み始めた。

零細企業経営者に自分の会社が売れるという認識は浸透していないが、事業売買が当たり前のこととして市場が拡大するようなら、古い事業が生まれ変わり、経済も活性化するだろう。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。